

JAPAN PATENT OFFICE

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

Date of Application: August 7, 2002

Application Number: Patent Application No. 2002-229979
[ST.10/C]: [JP2002-229979]

Applicant(s): HONDA ACCESS CORPORATION

June 13, 2003

Commissioner,
Japan Patent Office

Shinichiro Ota

Certificate No. 2003-3046509

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2002年 8月 7日

出 願 番 号

Application Number:

特願2002-229979

[ST.10/C]:

[JP2002-229979]

出 願 人

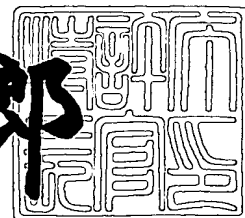
Applicant(s):

株式会社ホンダアクセス

2003年 6月13日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

太田 信一郎



出証番号 出証特2003-3046509

【書類名】 特許願

【整理番号】 YA102-35

【提出日】 平成14年 8月 7日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 B62J 39/00
B60R 11/02

【発明の名称】 C Dチェンジャーの収納構造

【請求項の数】 4

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県新座市野火止 8 目 1 8 番 4 号 株式会社ホンダアクセス内

【氏名】 榎本 賢一郎

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県新座市野火止 8 目 1 8 番 4 号 株式会社ホンダアクセス内

【氏名】 島崎 隆行

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県新座市野火止 8 目 1 8 番 4 号 株式会社ホンダアクセス内

【氏名】 落合 英雄

【特許出願人】

【識別番号】 390005430

【氏名又は名称】 株式会社ホンダアクセス

【代表者】 橋本 昇

【代理人】

【識別番号】 100071870

【弁理士】

【氏名又は名称】 落合 健

【選任した代理人】

【識別番号】 100097618

【弁理士】

【氏名又は名称】 仁木 一明

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 003001

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 C Dチェンジャーの収納構造

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 荷室（31）を形成する荷室形成壁（24）に、C D挿脱用の開口部（33）を前面に有するC Dチェンジャー（26）を収納し得る収納凹部（32）が設けられ、前記C Dチェンジャー（26）の前面を前記荷室形成壁（24）の内面から荷室（31）内に突出させる突出位置ならびに前記C Dチェンジャー（26）を前記収納凹部（32）内に収納させる収納位置間で前記C Dチェンジャー（26）を回動させることを可能とするとともに前記C Dチェンジャー（26）を突出位置側に付勢する回動支持手段（37）が、前記C Dチェンジャー（26）を浮動支持する支持棒（53）と、左右一対の固定のベース板（66）との間に設けられ、前記C Dチェンジャー（26）が前記収納位置にある状態では前記収納凹部（32）の開口端を塞ぐ蓋板（38）で前記C Dチェンジャー（26）が覆われるC Dチェンジャーの収納構造において、前記C Dチェンジャー（26）の前後に沿う前方側の係合解除位置および後方側の係合位置間でのスライドを可能として前記支持棒（53）に取付けられる前記蓋板（38）に係合部（86）が設けられ、前記両ベース板（66）には、前記蓋板（38）に係合位置にある状態では前記係合部（86）に係合せしめてC Dチェンジャー（26）の収納位置を維持する係止部（87）が、前記蓋板（38）の係合解除位置へのスライドに応じて係合部（86）との係合を解除して前記C Dチェンジャー（26）を突出位置に回動させるようにして前記両ベース板（66）に設けられ、前記蓋板（38）および前記支持棒（53）間には、前記蓋板（38）に係合位置でロックするとともにそのロック状態を手動操作に応じて解除し得るロック機構（89）が設けられることを特徴とするC Dチェンジャーの収納構造。

【請求項 2】 前記蓋板（38）の前記係合解除位置および係合位置間でのスライド時に前記係合部（86）の乗り越えを強制するクリックばね（88）が、前記支持棒（53）に設けられることを特徴とする請求項 1 記載のC Dチェンジャーの収納構造。

【請求項 3】 前記係合部（86）はC Dチェンジャー（26）の左右方向

に延びるようにして前記蓋板（３８）の内面に設けられ、前記係止部（８７）は、前記係合部（８６）を下方から係合させるようにして前記両ベース板（６６）の前端に設けられ、板ばねから成る前記クリックばね（８８）は、前記ＣＤチェンジャー（２６）が収納位置にある状態で前記係止部（８７）に前方側から対向するようにして前記支持枠（５３）に固定されることを特徴とする請求項２記載のＣＤチェンジャーの収納構造。

【請求項４】 前記蓋板（３８）に窓（９６）が設けられ、前記蓋板（３８）が係合位置および係合解除位置間でスライドするのに応じて前記窓（９６）に臨む部分の表示を異ならせるようにしたインジケータ（９７）が前記支持枠（５３）に設けられることを特徴とする請求項１～３のいずれかに記載のＣＤチェンジャーの収納構造。

【発明の詳細な説明】

【０００１】

【発明の属する技術分野】

本発明は、荷室を形成する荷室形成壁に、ＣＤ挿脱用の開口部を前面に有するＣＤチェンジャーを収納し得る収納凹部が設けられ、前記ＣＤチェンジャーの前面を前記荷室形成壁の内面から荷室内に突出させる突出位置ならびに前記ＣＤチェンジャーを前記収納凹部内に収納させる収納位置間で前記ＣＤチェンジャーを回動させることを可能とするとともに前記ＣＤチェンジャーを突出位置側に付勢する回動支持手段が、前記ＣＤチェンジャーを浮動支持する支持枠と、左右一対の固定のベース板との間に設けられ、前記ＣＤチェンジャーが前記収納位置にある状態では前記収納凹部の開口端を塞ぐ蓋板で前記ＣＤチェンジャーが覆われるＣＤチェンジャーの収納構造に関する。

【０００２】

【従来の技術】

従来、このような収納構造は、特開２００２－８７３５８号公報で既に知られている。

【０００３】

【発明が解決しようとする課題】

ところが、上記従来のもものでは、ＣＤチェンジャーを収納位置から突出位置に回動するにあたっては、蓋板に設けられた窓に臨む操作部を押し込むことで支持枠のベース板との係合を解除するようにしており、このような構成では、車体の振動によって支持枠およびベース板の係合が解除されてしまい、ＣＤチェンジャーが不所望に収納位置から突出位置に回動してしまう可能性がある。

【 0 0 0 4 】

本発明は、かかる事情に鑑みてなされたものであり、ＣＤチェンジャーが不所望に突出位置に回動してしまうことがないようにしたＣＤチェンジャーの収納構造を提供することを目的とする。

【 0 0 0 5 】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するために、請求項 1 記載の発明は、荷室を形成する荷室形成壁に、ＣＤ挿脱用の開口部を前面に有するＣＤチェンジャーを収納し得る収納凹部が設けられ、前記ＣＤチェンジャーの前面を前記荷室形成壁の内面から荷室内に突出させる突出位置ならびに前記ＣＤチェンジャーを前記収納凹部内に収納させる収納位置間で前記ＣＤチェンジャーを回動させることを可能とするとともに前記ＣＤチェンジャーを突出位置側に付勢する回動支持手段が、前記ＣＤチェンジャーを浮動支持する支持枠と、左右一対の固定のベース板との間に設けられ、前記ＣＤチェンジャーが前記収納位置にある状態では前記収納凹部の開口端を塞ぐ蓋板で前記ＣＤチェンジャーが覆われるＣＤチェンジャーの収納構造において、前記ＣＤチェンジャーの前後に沿う前方側の係合解除位置および後方側の係合位置間でのスライドを可能として前記支持枠に取付けられる前記蓋板に係合部が設けられ、前記両ベース板には、前記蓋板に係合位置にある状態では前記係合部を係合せしめてＣＤチェンジャーの収納位置を維持する係止部が、前記蓋板の係合解除位置へのスライドに応じて係合部との係合を解除して前記ＣＤチェンジャーを突出位置に回動させるようにして前記両ベース板に設けられ、前記蓋板および前記支持枠間には、前記蓋板に係合位置でロックするとともにそのロック状態を手動操作に応じて解除し得るロック機構が設けられることを特徴とする。

【 0 0 0 6 】

このような請求項 1 記載の発明の構成によれば、C Dチェンジャーを収納位置から突出位置に回動するには、ロック機構を手動操作によってロック解除状態とした後に、蓋板を係合位置から係合解除位置にスライド操作する必要がある、車体の振動に伴ってC Dチェンジャーが不所望に突出位置に回動してしまうことを確実に防止し、必要なときだけにC Dチェンジャーを突出位置に回動させるようにすることができる。

【 0 0 0 7 】

また請求項 2 記載の発明は、上記請求項 1 記載の発明の構成に加えて、前記蓋板の前記係合解除位置および係合位置間でのスライド時に前記係合部の乗り越えを強制するクリックばねが、前記支持枠に設けられることを特徴とし、かかる構成によれば、蓋板を係合位置および係合解除位置間でスライド操作する際には、係合部がクリックばねを乗り越えることが必要であるので、クリック感を得ることができ、それにより蓋板のスライド操作時に操作者が確実な操作感を得ることができる。

【 0 0 0 8 】

また請求項 3 記載の発明は、上記請求項 2 記載の発明の構成に加えて、前記係合部はC Dチェンジャーの左右方向に延びるようにして前記蓋板の内面に設けられ、前記係止部は、前記係合部を下方から係合させるようにして前記両ベース板の前端に設けられ、板ばねから成る前記クリックばねは、前記C Dチェンジャーが収納位置にある状態で前記係止部に前方側から対向するようにして前記支持枠に固定されることを特徴とし、かかる構成によれば、クリック感を得るための構造によって支持枠が厚み方向に大型化することを回避し、荷室形成壁に設けられる収納凹部が深くないようにすることができる。

【 0 0 0 9 】

さらに請求項 4 記載の発明は、上記請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載の発明の構成に加えて、前記蓋板に窓が設けられ、前記蓋板が係合位置および係合解除位置間でスライドするのに応じて前記窓に臨む部分の表示を異ならせるようにしたインジケータが前記支持枠に設けられることを特徴とし、かかる構成によれば、蓋板のスライド位置を操作者に確実に認識させることができる。

【 0 0 1 0 】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態を、添付の図面に示した本発明の一実施例に基づいて説明する。

【 0 0 1 1 】

図 1 ～図 2 0 は本発明の一実施例を示すものであり、図 1 は自動二輪車の側面図、図 2 は開放状態にあるトランクの斜視図、図 3 は図 2 の 3 矢視拡大図、図 4 は C D チェンジャーを突出位置に回動した状態での図 2 に対応した斜視図、図 5 は図 3 の 5 - 5 線拡大断面図、図 6 は図 5 の 6 - 6 線断面図、図 7 は蓋板を取外した状態での C D チェンジャー支持装置の側面図、図 8 は図 7 の 8 - 8 線矢視図、図 9 は図 8 の要部拡大図、図 1 0 は蓋板を取付けた状態での図 7 の 1 0 - 1 0 線に沿う断面図、図 1 1 は C D チェンジャー支持装置の分解斜視図、図 1 2 は C D チェンジャーを取付ける前の C D チェンジャー支持装置の側面図、図 1 3 は図 1 2 の 1 3 - 1 3 線拡大断面図、図 1 4 は図 1 3 の 1 4 - 1 4 線断面図、図 1 5 は図 5 の 1 5 - 1 5 線拡大断面図、図 1 6 は図 8 の 1 6 - 1 6 線拡大断面図、図 1 7 は図 8 の 1 7 - 1 7 線拡大断面図、図 1 8 は蓋板を係合解除位置にスライドさせたときの図 8 に対応した図、図 1 9 は蓋板を係合解除位置にスライドさせたときの図 1 5 に対応した図、図 2 0 は C D チェンジャーを突出位置とするように支持棒が回動したときの図 1 9 に対応した図である。

【 0 0 1 2 】

先ず図 1 ～図 4 において、大型の自動二輪車 V の車体 B には、その後輪 W R の上方に位置するようにして乗員を座乗せしめるためのメインシート 2 1 と、該メインシート 2 1 よりも後方側で同乗者を載せるためのピリオンシート 2 2 と、後輪 W R の左右にそれぞれ配置されるサイドバッグ 2 3、2 3 と、前記後輪 W R の上方であって前記ピリオンシート 2 2 の後方に配置されるトランク 2 4 とが設けられる。

【 0 0 1 3 】

トランク 2 4 は、上部を開放可能として形成されるとともに後輪 W R を上方から覆うリヤフェンダ 2 9 のさらに上方に配置されるものであり、該トランク 2 4

の上部を開閉可能に閉じるトランクリッド 2 5 がトランク 2 4 の上部にヒンジ結合される。このトランク 2 4 には C D チェンジャー 2 6 が収納されており、メインシート 2 1 に座乗して操向ハンドル 2 7 を握ったドライバは、その手元操作により前記 C D チェンジャー 2 6 での選曲、音量および音質の調節をしつつ、カウリング 2 8 等に設けられたスピーカ（図示せず）もしくはヘルメットに設けられたインターコム（図示せず）等により音楽を聞くことができ、ピリオンシート 2 の同乗者も音楽を楽しむことができる。

【 0 0 1 4 】

図 5 および図 6 を併せて参照して、トランク 2 4 は、水平な底壁 3 0 を有して上部を開放した箱形に形成されるトランク主部 2 4 a と、トランク主部 2 4 a の前方下部から下方に突出される突部 2 4 b とで構成される。前記トランク主部 2 4 a は荷室 3 1 を形成するものであり、トランク主部 2 4 a を構成する壁の一部である底壁 3 0 に開口する収納凹部 3 2 が前記突部 2 4 b 内に形成される。

【 0 0 1 5 】

C D チェンジャー 2 6 は、その前面に C D 挿脱用の開口部 3 3 および各種スイッチ類 3 4 を有して前後に長い箱形に構成されるものであり、前記開口部 3 3 および各種スイッチ類 3 4 を自動二輪車 V の前後方向に沿う後方側に向けるとともに自動二輪車 V の幅方向中央部に配置される C D チェンジャー 2 6 を、前記収納凹部 3 2 に収納することができる。

【 0 0 1 6 】

図 7 ～図 1 1 をさらに併せて参照して、C D チェンジャー 2 6 は C D チェンジャー支持装置 3 5 で支持されており、この C D チェンジャー支持装置 3 5 は、車体 B 側からの振動が C D チェンジャー 2 6 に極力及ばないように該 C D チェンジャー 2 6 を浮動支持する浮動支持手段 3 6 と、C D チェンジャー 2 6 の前面の開口部 3 3 および各種スイッチ類 3 4 を前記底壁 3 0 の内面から荷室 3 1 内に突出させる突出位置（図 4 で示す位置）ならびに C D チェンジャー 2 6 を収納凹部 3 2 内に収納させる収納位置（図 2 および図 3 で示す位置）間で前記 C D チェンジャー 2 6 を回動させ得る回動支持手段 3 7 と、C D チェンジャー 2 6 が前記収納位置にある状態では収納凹部 3 2 の開口端を塞いで底壁 3 0 の内面と面一となる

ようにしてＣＤチェンジャー２６を覆う合成樹脂製の蓋板３８とを備える。

【００１７】

ＣＤチェンジャー２６の両側面には、その前後方向に距離をあけた２箇所の取付け箇所が設定されており、内側面を該ＣＤチェンジャー２６の両側面に対向させた一对の取付け板３９、３９が、前記取付け箇所に、たとえばねじ部材４０、４０…により取付けられる。

【００１８】

浮動支持手段３６は、前記両取付け板３９、３９の外側面に対向して配置される一对の内側支持板４１、４１と、両内側支持板４１、４１に一对ずつ装着されて前記両取付け板３９、３９をそれぞれ支持するダンパ４２、４２…と、前記両内側支持板４１、４１に外側からそれぞれ対向するように配置される一对の外側支持板４３、４３と、両外側支持板４３、４３に一对ずつ装着されて前記両内側支持板４１、４１をそれぞれ支持するダンパ４４、４４…と、前記両取付け板３９、３９および両外側支持板４３、４３間にそれぞれ一对ずつ設けられてＣＤチェンジャー２６の重量に対抗するばね力を発揮する吊下げばね４５、４５…とを備える。

【００１９】

前記ダンパ４２…、４４…は、たとえばゴム等の弾性材により円盤状に形成される袋体内にグリース等の粘性の高い液体が封入されて成る従来周知のものであり、内側支持板４１、４１に対する取付け板３９、３９の鉛直面内での相対移動が各ダンパ４２…で緩衝され、外側支持板４３、４３に対する内側支持板４１、４１の鉛直面内での相対移動が各ダンパ４４…で緩衝される。

【００２０】

左右一对の内側支持板４１、４１の上部は、前後に間隔をあけた一对の連結板４６、４６で相互に連結され、それらの連結板４６、４６で内側支持板４１、４１相互の間隔が保持される。また左右一对の外側支持板４３、４３は、外側方に張り出す取付け鰐部４３ａ、４３ａを上端部に有して略Ｌ字状の横断面形状を有するように形成されており、各取付け鰐部４３ａ、４３ａは、前後に間隔をあけた３つの連結板４７、４８、４９で相互に連結される。さらに左右一对の外側支

持板 4 3, 4 3 の前後方向中間部に、上下に延びる縦枠板 5 0, 5 0 の上部が締結されており、両縦枠板 5 0, 5 0 の下部には略 L 字状の横断面形状を有して前後に延びる横枠板 5 1, 5 1 の中間部が固着され、さらに横枠板 5 1, 5 1 の前後両端が連結板 5 2, 5 2 で相互に連結される。

【 0 0 2 1 】

このような外側支持板 4 3, 4 3、連結板 4 7 ~ 4 9, 5 2, 5 2、縦枠板 5 0, 5 0 および横枠板 5 1, 5 1 で、CD チェンジャー 2 6 を囲む支持枠 5 3 が構成され、CD チェンジャー 2 6 が該支持枠 5 3 で浮動支持される。

【 0 0 2 2 】

ところで、取付け板 3 9 を CD チェンジャー 2 6 に取付けるためのねじ部材 4 0, 4 0 を支持枠 5 3 の外方側から操作するための操作用開口部 5 4 が支持枠 5 3 における内側支持板 4 1 および外側支持板 4 3 間に形成されており、両ねじ部材 4 0, 4 0 の一方を側方から覆う位置に配置されている縦枠板 5 0 には、前記一方のねじ部材 4 0 に対応した操作用開口部 5 5 が設けられる。

【 0 0 2 3 】

また連結板 4 7, 4 9 には、CD チェンジャー 2 6 の前後両端部上面にそれぞれ対向するスポンジ等の弾性部材 5 6, 5 6 … が一対ずつ取付けられ、連結板 5 2, 5 2 には CD チェンジャー 2 6 の前後両端部下面にそれぞれ対向するスポンジ等の弾性部材 5 7, 5 7 … が一対ずつ取付けられ、急激な荷重の作用による CD チェンジャー 2 6 の連結板 4 7, 4 9, 5 2 … との衝撃がそれらの弾性部材 5 6 …, 5 7 … で緩和される。また横枠板 5 1, 5 1 の下部上面には、急激な荷重の作用による内側支持板 3 9, 3 9 およびダンパ 4 2 … の横枠板 5 1, 5 1 との衝撃を緩和するためのスポンジ等の弾性部材 5 8, 5 8 が取付けられる。

【 0 0 2 4 】

CD チェンジャー 2 6 を覆う盖板 3 8 は、前記支持枠 5 3 における外側支持板 4 3, 4 3 の取付け部 4 3 a, 4 3 a に、たとえば複数のねじ部材 5 9 … と、それらのねじ部材 5 9 … に対応して取付け部 4 3 a, 4 3 a に固着されるウェルドナット 6 0 … とで取付けられる。

【 0 0 2 5 】

ところで、CDチェンジャー支持装置35にCDチェンジャー26を取り付ける前には、両取付け板39、39の位置が定まらず、CDチェンジャー26の両側に取付け板39、39を取り付ける際の位置合わせが難しくなる。

【0026】

そこで、CDチェンジャー26の取外し状態では、支持枠53において両外側支持板41、41の上部間を連結する連結板48と、両内側支持板41、41との間に、図11で示すようにストッパ61…がそれぞれ着脱可能にセットされる。

【0027】

図12～図14において、連結板48に対応する位置で取付け板39の上部には外側方に張出す鰐部39aが一体に設けられ、該鰐部39aには位置決め孔62が設けられる。

【0028】

ストッパ61は、前記鰐部39aおよび連結板48間に挿入されるようにして連結板48に着脱可能に締結されるものであり、連結板48の下面にねじ部材63により締結される取付け板部61aと、該取付け板部61aの外端から下方に延びて前記鰐部39aの上面に当接する間隔保持部61bと、前記位置決め孔62に挿入されるようにして間隔保持部61bの下端から突出される位置決め突部61cと、連結板48の前後いずれかから上方に突出するようにして間隔保持部61bに連設される耳部61dとを一体に備えるものであり、位置決め突部61cが取付け板39の上部外面に対向して位置決め孔62に挿入されることにより取付け板39の鉛直姿勢が保持され、またばね45…で上方に付勢されている取付け板39の上下位置は間隔保持部61bが鰐部41aの上面に当接することにより一定に保持される。

【0029】

また耳部61dは、ストッパ61のセット時には連結板48よりも上方に突出するので、ストッパ61がセットされているか否かを容易に見分けることができる。しかも左右一対の取付け板39、39に対して同一形状のストッパ61…が用いられるので、耳部61d…は、一対の取付け板39、39の一方側では連結

板 4 8 の後方側に配置されるのに対して両取付け板 3 9, 3 9 の他方側では連結板 4 8 の前方側に配置されることになる。

【 0 0 3 0 】

前記ねじ部材 6 3 …の締付けにより、各ストッパ 6 1 …を連結板 4 8 および取付け板 3 9, 3 9 間にセットすると、支持棒 5 3 に対する取付け板 3 9, 3 9 の 3 次元相対位置を一定に保持することが可能となり、これにより、C Dチェンジャー 2 6 の両側の取付け板 3 9, 3 9 を内側支持板 4 1, 4 1 に取り付ける際の位置合わせが容易となる。また C Dチェンジャー支持装置 3 5 の運搬時に各ストッパ 6 1 …をセットしておくことにより、C Dチェンジャー 2 6 が振動しないように固定、保持することができる。

【 0 0 3 1 】

支持棒 5 3 は、C Dチェンジャー 2 6 および支持棒 5 3 の両側に配置される一対のベース板 6 6, 6 6 に回動支持手段 3 7 を介して回動自在に支承されるものであり、両ベース板 6 6, 6 6 は、車体 B の一部である車体フレーム F がその後部に備えてトランク 2 4 の両側下方に配置される横断面矩形状のシートレール 6 7, 6 7 に固定される。

【 0 0 3 2 】

図 5 および図 6 に注目して、トランク 2 4 におけるトランク主部 2 4 a の左右両側には、前記両シートレール 6 7, 6 7 の上方に配置される支持段部 6 8, 6 8 が形成されており、前記ベース板 6 6, 6 6 は、前記支持棒 5 3 における両外側支持板 4 3, 4 3 の取付け部 4 3 a, 4 3 a の下方であって前記支持段部 6 8, 6 8 の上方に配置される。

【 0 0 3 3 】

前記支持段部 6 8, 6 8 の下方でシートレール 6 7, 6 7 の上部にはベース支持棒 6 9, 6 9 が被せられ、シートレール 6 7 …の周方向に沿うベース支持棒 6 9, 6 9 の一端に一端に係合されるバンド 7 0, 7 0 の他端が、シートレール 6 7 …の周方向に沿うベース支持棒 6 9, 6 9 の他端にボルト 7 1 …およびウエルドナット 7 2 …で締結される。すなわちベース支持棒 6 9 …はトランク 2 4 の支持段部 6 8, 6 8 の下方でシートレール 6 7 …に固着されるものであり、これら

のベース支持枠 6 9 …には、前記支持段部 6 8 …を貫通して上方に延びる円筒状の支持脚 7 3, 7 3 …の下端がそれぞれ一対ずつ固着される。

【 0 0 3 4 】

各支持脚 7 3, 7 3 …の上端はベース板 6 6, 6 6 の下面に当接するものであり、ベース板 6 6, 6 6 にそれぞれ一対ずつ挿通されるねじ部材 7 4, 7 4 …が下記支持脚 7 3, 7 3 …の上部に螺合される。すなわち各ねじ部材 7 4, 7 4 …を締めつけることにより、ベース板 6 6, 6 6 は支持脚 7 3, 7 3 …を介して車体フレーム F のシートレール 6 7, 6 7 に固定されることになる。

【 0 0 3 5 】

またベース板 6 6, 6 6 と、トランク 2 4 の支持段部 6 8, 5 8 との間には下記支持脚 7 3, 7 3 …を貫通させるスペーサ 7 5, 7 5 が介装される。

【 0 0 3 6 】

図 1 5 において、回動支持手段 3 7 は、前記支持枠 5 3 における外側支持板 4 3 の後端部と、前記ベース板 6 6 の後端部に一体に設けられて外側支持板 4 3 の後端部に対向する支持板部 6 6 a との間に設けられるものであり、支持板部 6 6 a を貫通して外側支持板 4 3 に固定されるボルト 7 6 と、ベース板 6 6 および外側支持板 4 3 間に設けられるねじりばね 7 7 とを備える。

【 0 0 3 7 】

ベース板 6 6 の支持板部 6 6 a および外側支持板 4 3 間には第 1 カラー 7 9 が介装されており、第 1 カラー 7 9 との間に支持板部 6 6 a を挟む鰐部 8 0 a を備える第 2 カラー 8 0 が第 1 カラー 7 9 に同軸に当接するようにして支持板部 6 6 a に装着され、さらに前記鰐部 8 8 a に一端が同軸に当接される第 3 カラー 8 1 の他端部には鰐部 8 1 a が一体に設けられる。而してボルト 7 6 は、その拡張頭部 7 6 a および外側支持板 4 3 間にワッシャ 7 8 を介在するようにして、外側支持板 4 3 および第 1 ～第 3 カラー 7 9 ～8 1 に挿通され、ボルト 7 6 の第 3 カラー 8 1 からの突出部に螺合されるナット 8 2 を、第 3 カラー 8 1 の鰐部 8 1 a に当接するまで締め付けることによりボルト 7 6 が外側支持板 4 3 に固定され、外側支持板 4 3 は、ボルト 7 6 を介してベース板 6 6 に回動可能に支承されることになる。またねじりばね 7 7 は、第 3 カラー 8 1 を囲繞するようにしてベース板

6 6 および外側支持板 4 3 間に設けられる。

【 0 0 3 8 】

このような回動支持手段 3 7, 3 7 により、C D チェンジャー 2 6 の前面を底壁 3 0 の内面から荷室 3 1 内に突出させる突出位置ならびに C D チェンジャー 2 6 を収納凹部 3 2 内に収納させる収納位置間での回動を可能とするとともに、突出位置側にばね付勢されるようにして、両外側支持板 4 3, 4 3 すなわち支持棒 5 3 がベース板 6 6, 6 6 に支承されることになる。

【 0 0 3 9 】

ところで、蓋板 3 8 は、C D チェンジャー 2 6 の前後に沿う前方側の係合位置および後方側の係合解除位置間でのスライドを可能として支持棒 5 3 の両外側支持板 4 3, 4 3 に取付けられるものであり、蓋板 3 8 を両外側支持板 4 3, 4 3 に取付けるためのねじ部材 5 9 …は、外側支持板 4 3, 4 3 に対する前記係合位置および係合解除位置間での蓋板 3 8 のスライドを可能とするために、前後方向に長く延びて蓋板 3 8 に設けられた長孔 8 3 …に挿通される。

【 0 0 4 0 】

蓋板 3 8 の前後方向中間部両側には、上方に隆起して前後に延びる隆起部 3 8 a, 3 8 a が一体に形成されており、両端を隆起部 3 8 a, 3 8 a 内に臨ませるようにして蓋板 3 8 の幅方向に延びるプレート 8 4 が一對のねじ部材 8 5, 8 5 で蓋板 3 8 の内面に締結され、該プレート 8 4 の両端には、C D チェンジャー 2 6 の左右方向に延びる係合部 8 6, 8 6 として機能する棒材が固着される。すなわち蓋板 3 8 の両側に係合部 8 6, 8 6 が設けられている。

【 0 0 4 1 】

一方、ベース板 6 6 …の前端には、蓋板 3 8 が係合位置にあるときには前記係合部 8 6 …を下方から係合させて C D チェンジャー 2 6 の収納位置を維持する係止部 8 7 …が一体に形成され、これらの係止部 8 7 …は前記蓋板 3 8 の隆起部 3 8 a …内に収納される。しかも係止部 8 7 …は、蓋板 3 8 が係合位置から係合解除位置にスライドしたときには、前記係合部 8 6 …との係合を解除するものでり、係止部 8 7 …および係合部 8 6 …の係合が解除されたときに、回動支持手段 3 7 におけるねじりばね 7 7 のばね力によって蓋板 3 8 は突出位置側に回動するこ

とになる。

【 0 0 4 2 】

また蓋板 3 8 が係合解除位置および係合位置間でスライドするときに係合部 8 6 … を乗り換えさせるクリックばね 8 8 … が支持棒 5 3 に設けられる。このクリックばね 8 8 … は、中間部を上方に彎曲させた板ばねから成るものであり、C D チェンジャー 2 6 が収納位置にある状態で前記係止部 8 7 … に前方から対向するようにして、支持棒 5 3 の前端における連結板 4 7 の両端に取付けられる。

【 0 0 4 3 】

また蓋板 3 8 の後端には、可撓性を持たせるために薄肉とされた舌部 3 8 b が、トランク 2 4 の底壁 3 0 に摺接するようにして一体に形成される。

【 0 0 4 4 】

図 1 6 および図 1 7 を併せて参照して、蓋板 3 8 および支持棒 5 3 間には、蓋板 3 8 を係合位置でロックするとともにそのロック状態を手動操作によって解除し得るロック機構 8 9 が設けられる。

【 0 0 4 5 】

このロック機構 8 9 は、支持棒 5 3 側に固定される板ばね 9 0 と、蓋板 3 8 が係合位置にあるとときに前記板ばね 9 0 の一部を弾発係合させるようにして蓋板 3 8 に設けられる係合孔 9 1 とで構成される。

【 0 0 4 6 】

支持棒 5 3 が前端上部に備える連結板 4 7 の幅方向中央部には、連結板 4 7 から前方に延びる平板状のばね支持板 9 2 が固着されており、前記板ばね 9 0 の前端が該ばね支持板 9 2 に、たとえば一対のリベット 9 3, 9 3 等によって固着される。板ばね 9 0 の後部には、上方に隆起した弾発係合部 9 0 a が形成されており、ばね支持板 9 2 には該弾発係合部 9 0 a を挿通させる透孔 9 4 が設けられる。

【 0 0 4 7 】

前記弾発係合部 9 0 a は、蓋板 3 8 が係合位置にあるとときに該蓋板 3 8 の係合孔 9 1 に係合可能であり、弾発係合部 9 0 a の係合孔 9 1 への係合状態では蓋板 3 8 が係合位置に保持される。而して弾発係合部 9 0 a を上方から押し込むこ

とによって係合孔 9 1 との係合を解除すると、図 1 8 および図 1 9 で示すように、蓋板 3 8 はその内面に前記弾発係合部 9 0 a を摺接させながら係合解除位置側に前進スライドすることができ、その前進スライドにより、係合部 8 6 … および係止部 8 7 … の係合が解除されることになる。

【 0 0 4 8 】

而して係合部 8 6 … および係止部 8 7 … の係合が解除されるのに応じて、支持棒 5 3 は、回動支持手段 3 7 におけるねじりばね 7 7 … のばね力により、図 2 0 で示すように上方にはね上げられることになり、それにより支持棒 5 3 で浮動支持された C D チェンジャー 2 6 が突出位置となる。この際、支持棒 5 3 の突出位置側への回動端を規制するために、支持棒 5 3 における縦棒板 5 0 … には、ベース板 6 6 … に下方から係合する規制突部 9 5 … が一体に突設される。また支持棒 5 3 の突出位置への回動に応じて蓋板 3 8 の舌部 3 8 b は図 2 0 で示すように収納凹部 3 2 の後端縁に接触したまま屈曲することになる。

【 0 0 4 9 】

前記係合孔 9 1 の側方で蓋板 3 8 には窓 9 6 が設けられており、支持棒 5 3 に固着されたばね支持板 9 2 には、蓋板 3 8 が係合位置および係合解除位置間でスライドするのに応じて前記窓 9 6 に臨む部分の表示を異ならせるようにしたインジケータ 9 7 が設けられる。

【 0 0 5 0 】

インジケータ 9 7 は、たとえばラベルをばね支持板 9 2 の上面に接着することにより形成されるものであり、蓋板 3 8 が係合位置にあるときに前記窓 9 6 に臨む第 1 表示部 9 8 と、蓋板 3 8 が係合解除位置にあるときに前記窓 9 6 に臨む第 2 表示部 9 9 とを備える。而して第 1 表示部 9 8 が、たとえば緑色に着色されるのに対し、第 2 表示部 9 9 は、たとえば赤色に着色される。

【 0 0 5 1 】

次にこの実施例の作用について説明すると、C D チェンジャー 2 6 の両側にそれぞれ取付けられる取付け板 3 9、3 9 を、車体 B に固定されて C D チェンジャー 2 6 の両側にそれぞれ配置されるベース板 6 6、6 6 に浮動支持するための浮動支持手段 3 6 は、両取付け板 3 9、3 9 に外側からそれぞれ対向する一対の内

側支持板 4 1, 4 1 と、両内側支持板 4 1 …に対する鉛直面内での両取付け板 3 9 …の変位を緩衝するようにして内側支持板 4 1 …および取付け板 3 9 …の前後 2 箇所ずつを連結するダンパ 4 2, 4 2 …と、両内側支持板 4 1 …に外側からそれぞれ対向して両ベース板 6 6 …に支持される一対の外側支持板 4 3, 4 3 と、外側支持板 4 3 …に対する鉛直面内での内側支持板 4 1 …の変位を緩衝するようにして外側支持板 4 3 …および内側支持板 4 1 …の前後 2 箇所ずつを連結するダンパ 4 4, 4 4 …と、C Dチェンジャー 2 6 の重量に対抗するばね力を発揮するようにして両取付け板 3 9 …および両外側支持板 4 3 …間にそれぞれ一対ずつ設けられる吊下げばね 4 5 …とで構成される。

【 0 0 5 2 】

このような浮動支持手段 3 6 の構成によれば、車体 B の車体フレーム F に支持された一対のベース板 6 6, 6 6 からの振動は、前後一対ずつ 2 組のダンパ 4 4, 4 4 …の緩衝作用により減衰されて両外側支持板 4 3, 4 3 から両内側支持板 4 1, 4 1 に伝達され、さら前後一対ずつ 2 組のダンパ 4 2, 4 2 …の緩衝作用により減衰されて両内側支持板 4 1, 4 1 から C Dチェンジャー 2 6 に伝達されることになり、片側 4 個ずつ合計 8 個のダンパ 4 2, 4 2 …; 4 4, 4 4 …による大きな減衰力および吊下げばね 4 5 …による減衰力で車体からの振動が C Dチェンジャーに伝わるのを極力抑制することができる。したがって車体 B に作用する衝撃が大きくてもその衝撃を緩和して C Dチェンジャー 2 6 での音飛びの発生をより確実に防止し、衝撃の作用によって C Dチェンジャー 2 6 にダメージが及ぶことも確実に防止することができる。

【 0 0 5 3 】

また前記両ベース板 6 6, 6 6 は、C Dチェンジャー 2 6 の両側で車体フレーム F に一対ずつ固着された支持脚 7 3, 7 3 …の上部に固着されており、車体フレーム F 側からの振動を減衰する浮動支持手段 3 6 を介して C Dチェンジャー 2 6 が両ベース板 6 6, 6 6 に支持されるので、車体フレーム F の振動がトランク 2 4 に伝達されてもトランク 2 4 から C Dチェンジャー 2 6 に振動が伝わることはなく、車体フレーム F の振動が浮動支持手段 3 6 で減衰されて C Dチェンジャー 2 6 に伝わることになるので、C Dチェンジャー 2 6 に作用する振動を抑制す

ることができる。

【 0 0 5 4 】

さらにCDチェンジャー26の前後に沿う前方側の係合解除位置および後方側の係合位置間でのスライドを可能として支持枠53に蓋板38が取付けられており、この蓋板38に設けられた係合部86、86を該蓋板38が係合位置にある状態で係合せしめてCDチェンジャー26の収納位置を維持する係止部87、87が、蓋板38の係合解除位置へのスライドに応じて係合部86…との係合を解除してCDチェンジャー26を突出位置に回動させるようにして両ベース板66…に設けられ、蓋板38および支持枠53間には、蓋板38を係合位置でロックするとともにそのロック状態を手動操作に応じて解除し得るロック機構89が設けられている。

【 0 0 5 5 】

したがってCDチェンジャー26を収納位置から突出位置に回動するには、ロック機構89を手動操作によってロック解除状態とした後に、蓋板38を係合位置から係合解除位置にスライド操作する必要がある、車体Bの振動に伴ってCDチェンジャー26が不所望に突出位置に回動してしまうことを確実に防止し、必要なときだけにCDチェンジャー26を突出位置に回動させるようにすることができる。

【 0 0 5 6 】

しかも蓋板38の係合解除位置および係合位置間でのスライド時に係合部86…の乗り越えを強制するクリックばね88…が、支持枠53に設けられるので、蓋板38を係合位置および係合解除位置間でスライド操作する際にクリック感を得ることができ、蓋板38のスライド操作時に操作者が確実な操作感を得ることができる。

【 0 0 5 7 】

また係合部86…CDチェンジャー26の左右方向に延びるようにして蓋板38の内面に設けられ、係止部87…は、係合部86…を下方から係合させるようにして両ベース板66…の前端に設けられ、板ばねから成るクリックばね88…は、CDチェンジャー26が収納位置にある状態で係止部87…に前方側から対

向するようにして支持棒 5 3 に固定されているので、クリック感を得るための構造によって支持棒 5 3 が厚み方向に大型化することを回避し、トランク 2 4 に設けられる収納凹部 3 2 が深くならないようにすることができる。

【 0 0 5 8 】

さらに蓋板 3 8 に窓 9 6 が設けられ、蓋板 3 8 が係合位置および係合解除位置間でスライドするのに応じて窓 9 6 に臨む部分の表示を異ならせるようにしたインジケータ 9 7 が支持棒 5 3 のばね支持板 9 2 に設けられるので、蓋板 3 8 のスライド位置を操作者に確実に認識させることができる。

【 0 0 5 9 】

以上、本発明の実施例を説明したが、本発明は上記実施例に限定されるものではなく、特許請求の範囲に記載された本発明を逸脱することなく種々の設計変更を行うことが可能である。

【 0 0 6 0 】

【発明の効果】

以上のように請求項 1 記載の発明によれば、車体の振動に伴って C D チェンジャーが不所望に突出位置に回動してしまうことを確実に防止し、必要なときだけに C D チェンジャーを突出位置に回動させるようにすることができる。

【 0 0 6 1 】

また請求項 2 記載の発明によれば、蓋板を係合位置および係合解除位置間でスライド操作する際にクリック感を得ることができ、それにより蓋板のスライド操作時に操作者が確実な操作感を得ることができる。

【 0 0 6 2 】

また請求項 3 記載の発明によれば、クリック感を得るための構造によって支持棒が厚み方向に大型化することを回避し、荷室形成壁に設けられる収納凹部が深くならないようにすることができる。

【 0 0 6 3 】

さらに請求項 4 記載の発明によれば、蓋板のスライド位置を操作者に確実に認識させることができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

自動二輪車の側面図である。

【図 2】

開放状態にあるトランクの斜視図である。

【図 3】

図 2 の 3 矢視拡大図である。

【図 4】

C Dチェンジャーを突出位置に回動した状態での図 2 に対応した斜視図である。

【図 5】

図 3 の 5 - 5 線拡大断面図である。

【図 6】

図 5 の 6 - 6 線断面図である。

【図 7】

蓋板を取外した状態での C Dチェンジャー支持装置の側面図である。

【図 8】

図 7 の 8 - 8 線矢視図である。

【図 9】

図 8 の要部拡大図である。

【図 1 0】

蓋板を取付けた状態での図 7 の 1 0 - 1 0 線に沿う断面図である。

【図 1 1】

C Dチェンジャー支持装置の分解斜視図である。

【図 1 2】

C Dチェンジャーを取付ける前の C Dチェンジャー支持装置の側面図である。

【図 1 3】

図 1 2 の 1 3 - 1 3 線拡大断面図である。

【図 1 4】

図 1 3 の 1 4 - 1 4 線断面図である。

【図 1 5】

図 5 の 1 5 - 1 5 線拡大断面図である。

【図 1 6】

図 8 の 1 6 - 1 6 線拡大断面図である。

【図 1 7】

図 8 の 1 7 - 1 7 線拡大断面図である。

【図 1 8】

蓋板を係合解除位置にスライドさせたときの図 8 に対応した図である。

【図 1 9】

蓋板を係合解除位置にスライドさせたときの図 1 5 に対応した図である。

【図 2 0】

C D チェンジャーを突出位置とするように支持棒が回転したときの図 1 9 に対応した図である。

【符号の説明】

2 4 . . . 荷室形成壁

2 6 . . . C D チェンジャー

3 1 . . . 荷室

3 3 . . . 開口部

3 2 . . . 収納凹部

3 7 . . . 回転支持手段

3 8 . . . 蓋板

5 3 . . . 支持棒

6 6 . . . ベース板

8 6 . . . 係合部

8 7 . . . 係止部

8 8 . . . クリックばね

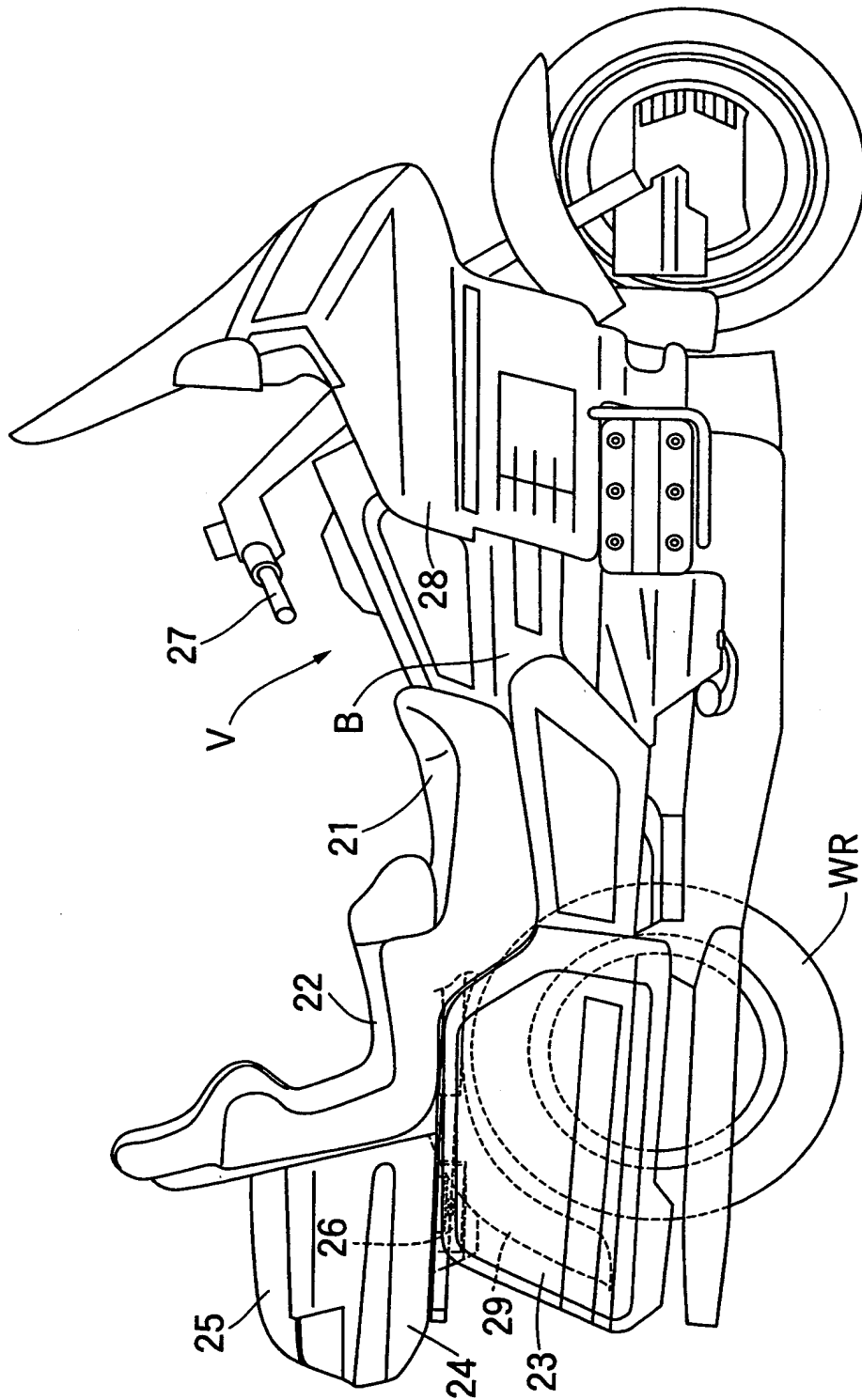
8 9 . . . ロック機構

9 6 . . . 窓

9 7 . . . インジケータ

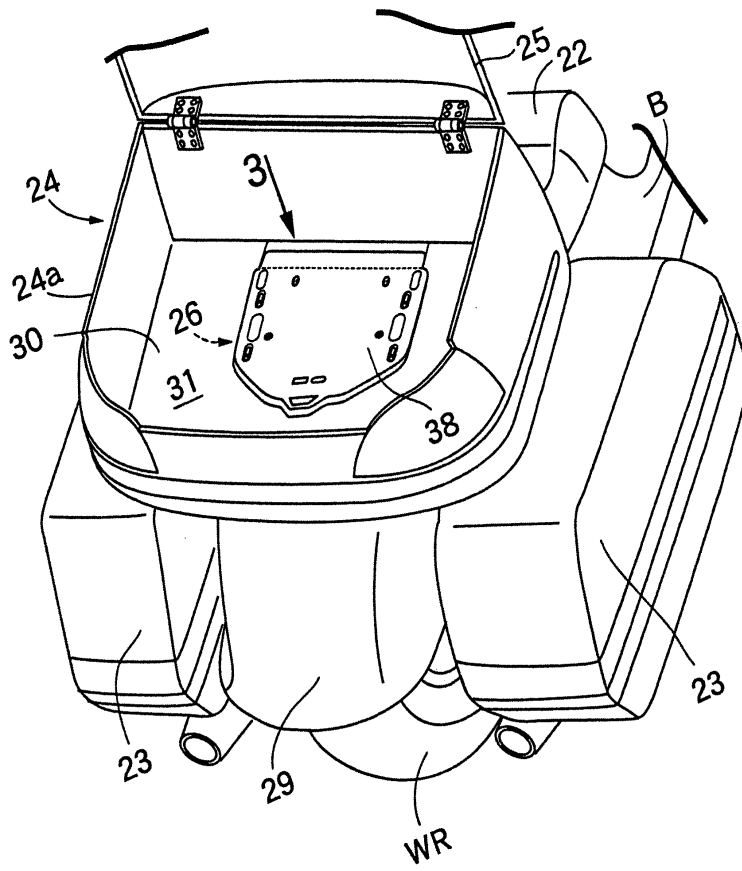
【書類名】 図面

【図 1】



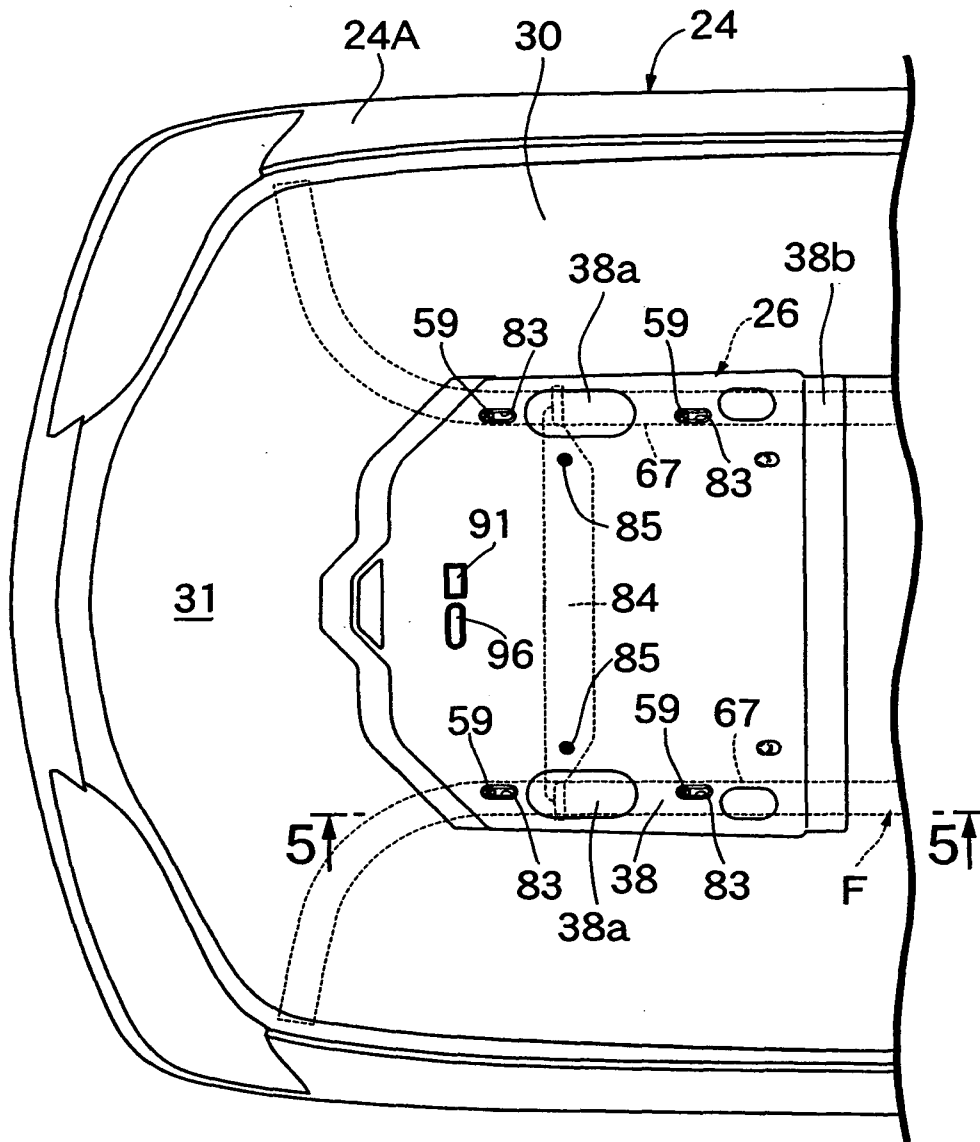
特2002-229979

【図2】

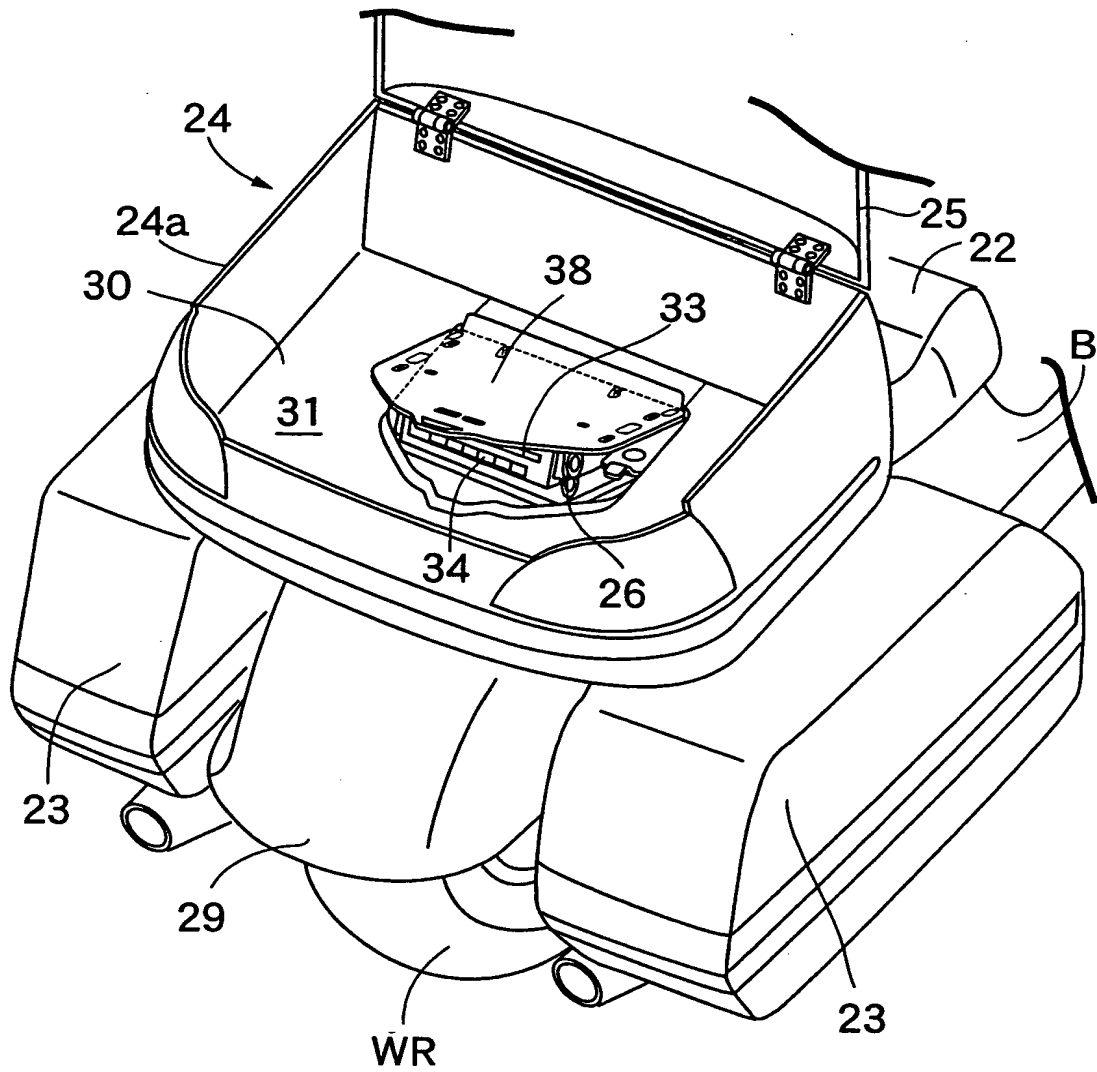


出証特2003-3046509

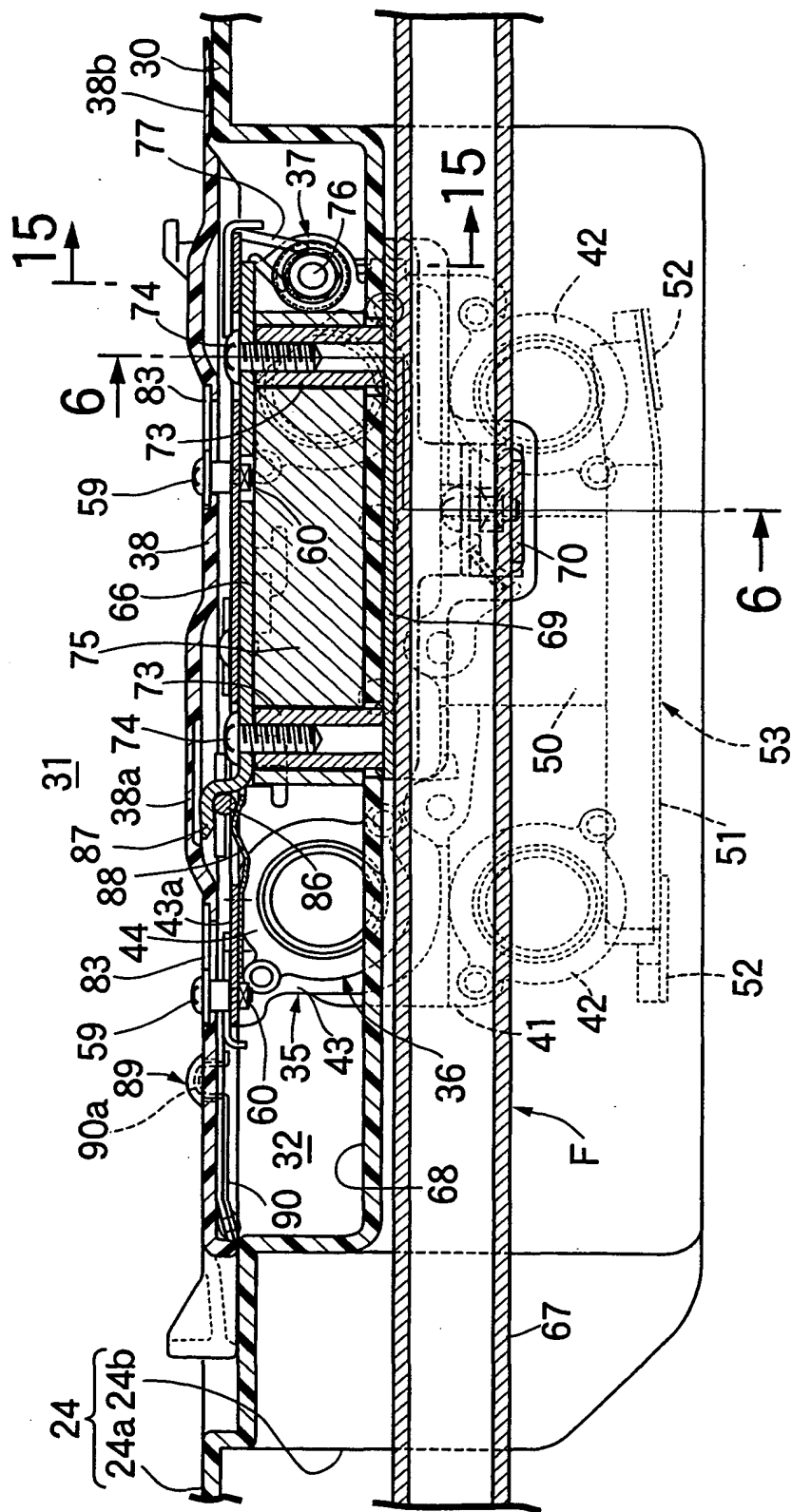
【図3】



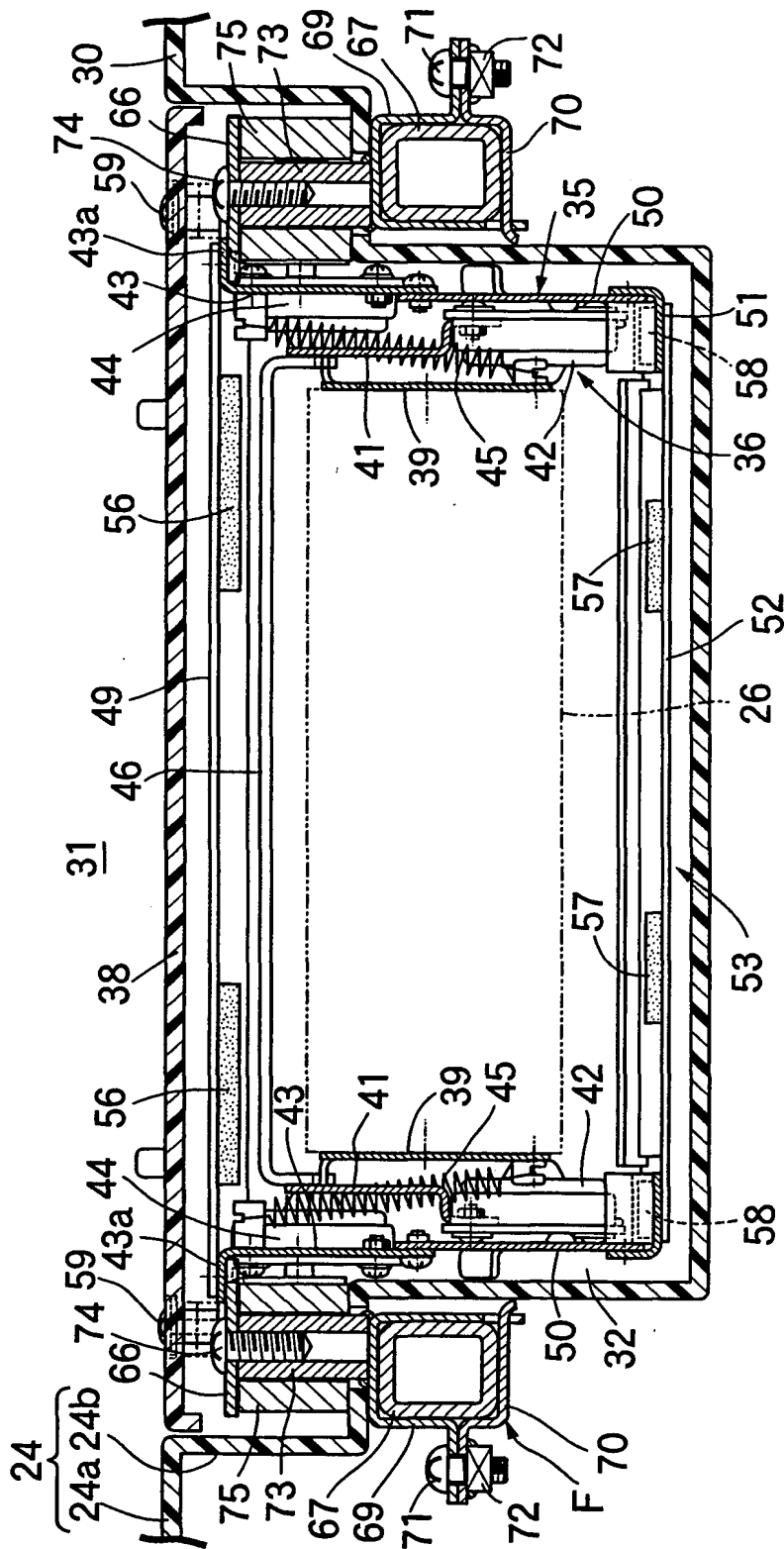
【図 4】



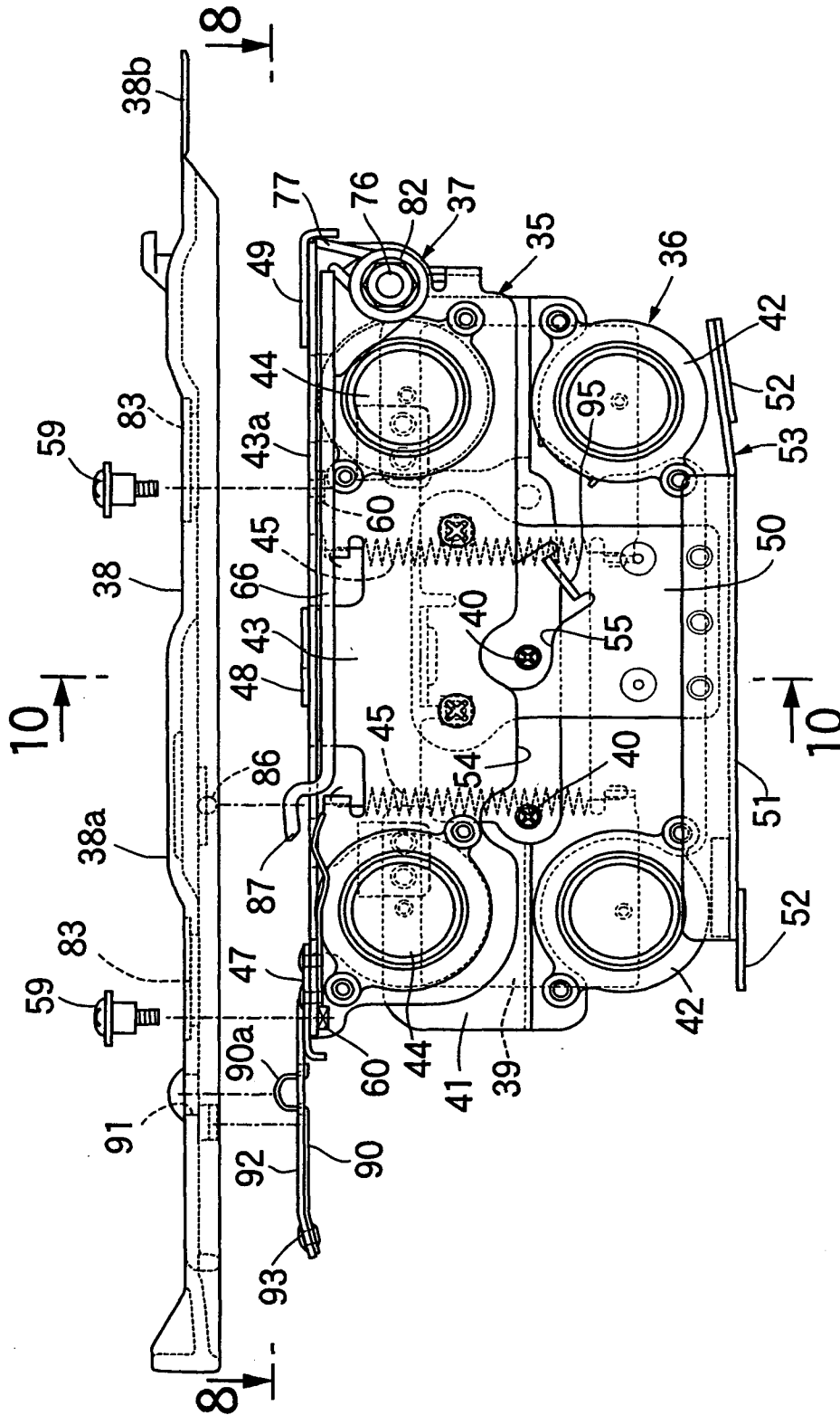
【図 5】



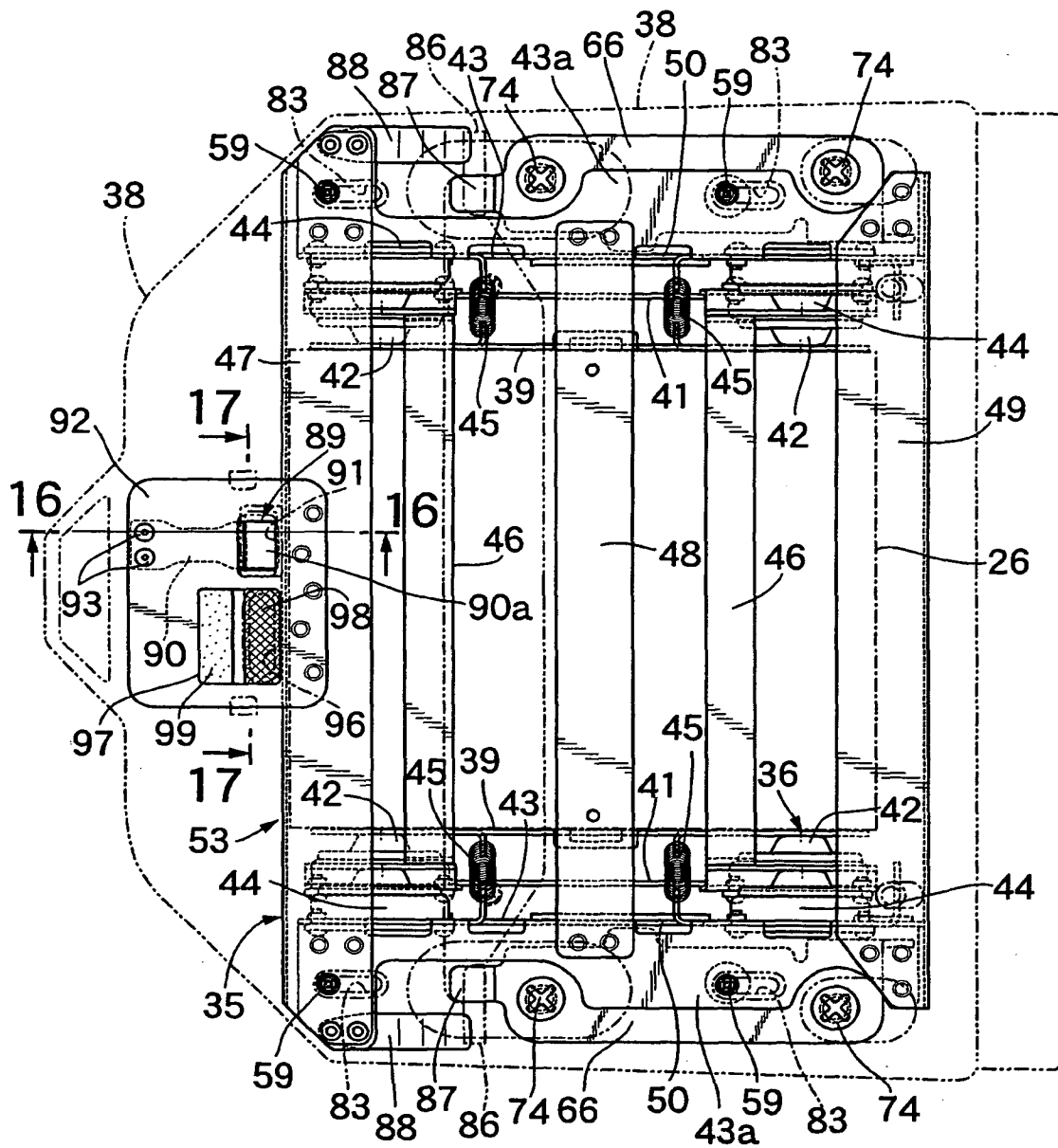
【図 6】



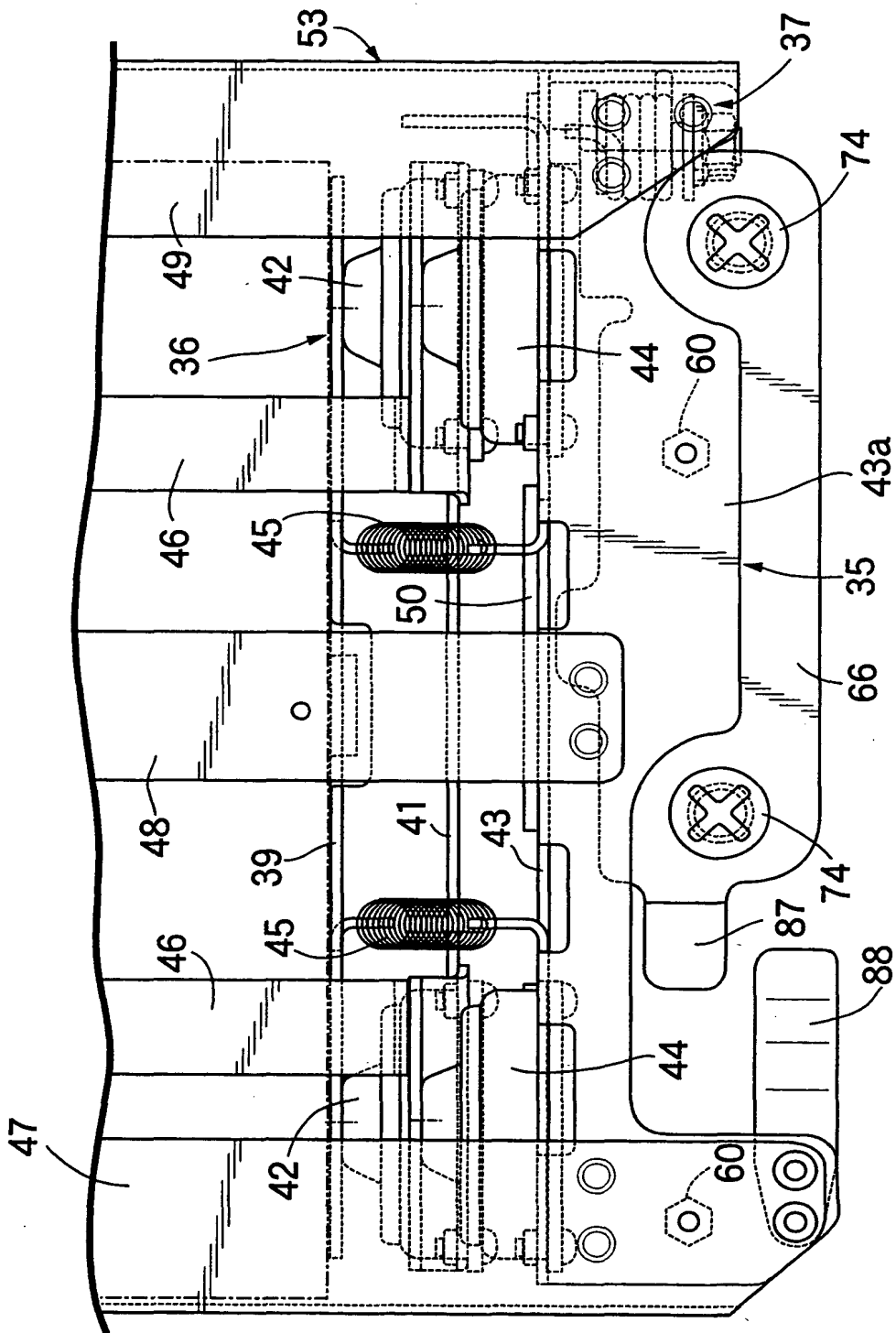
【図 7】



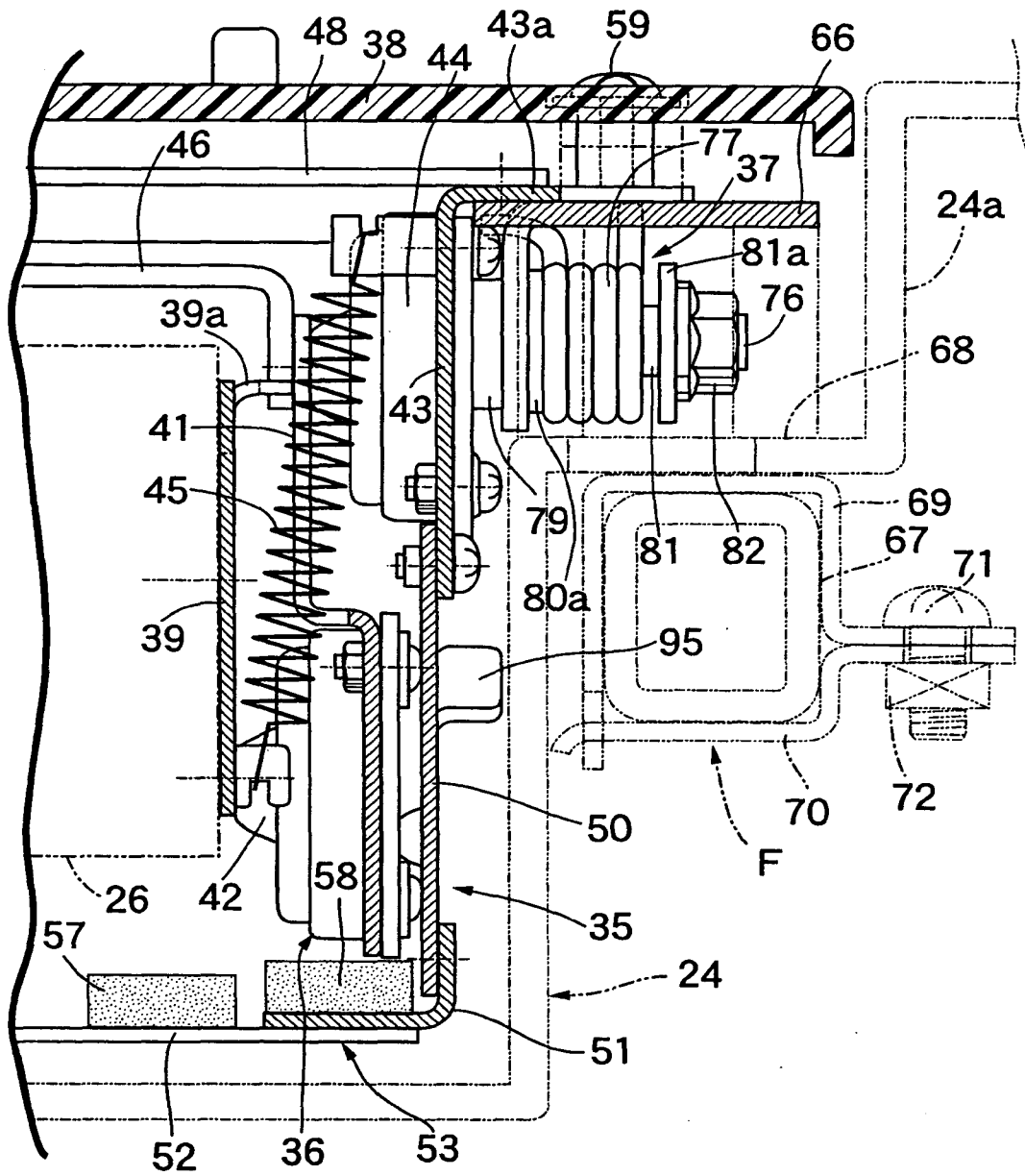
【図 8】



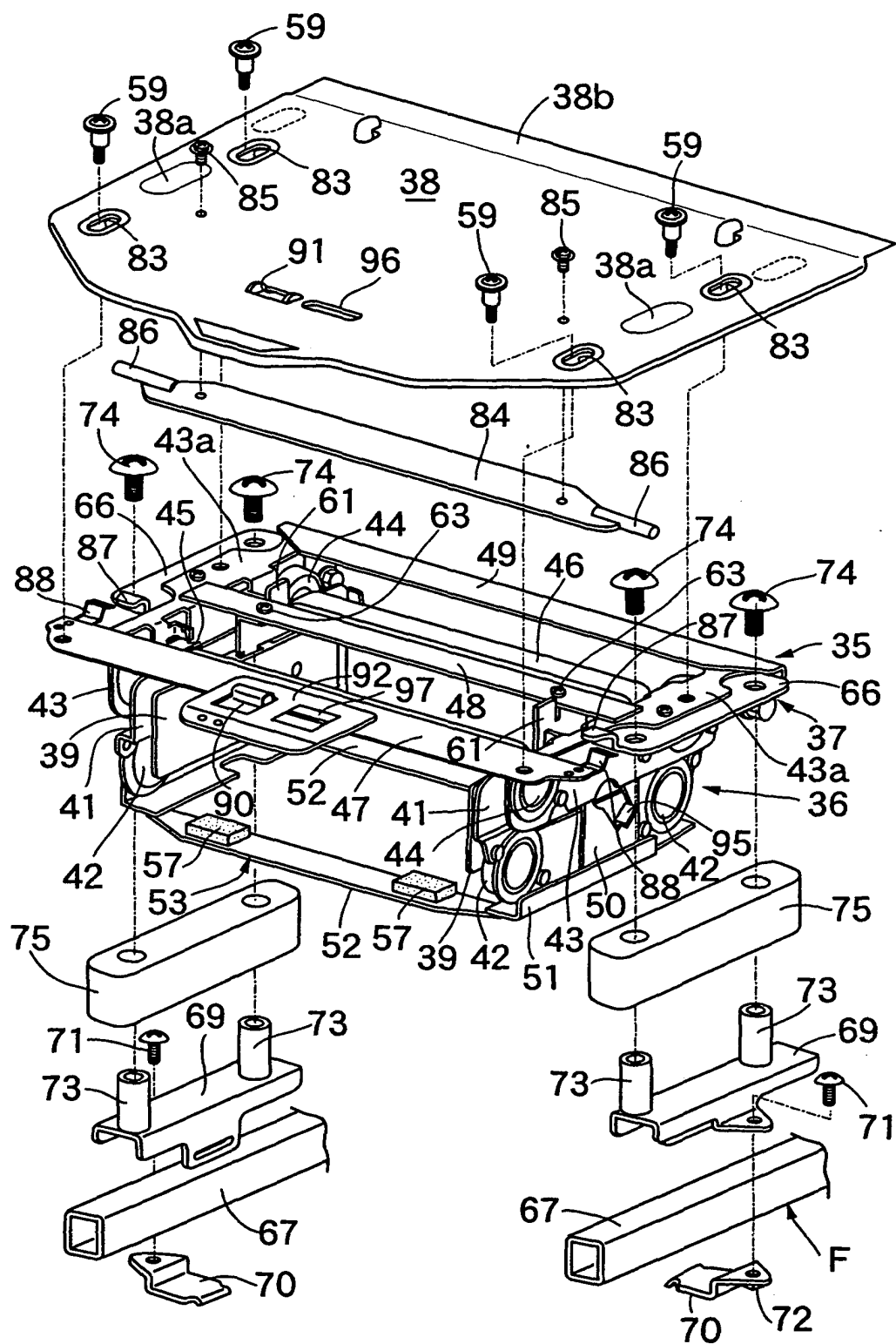
【図9】



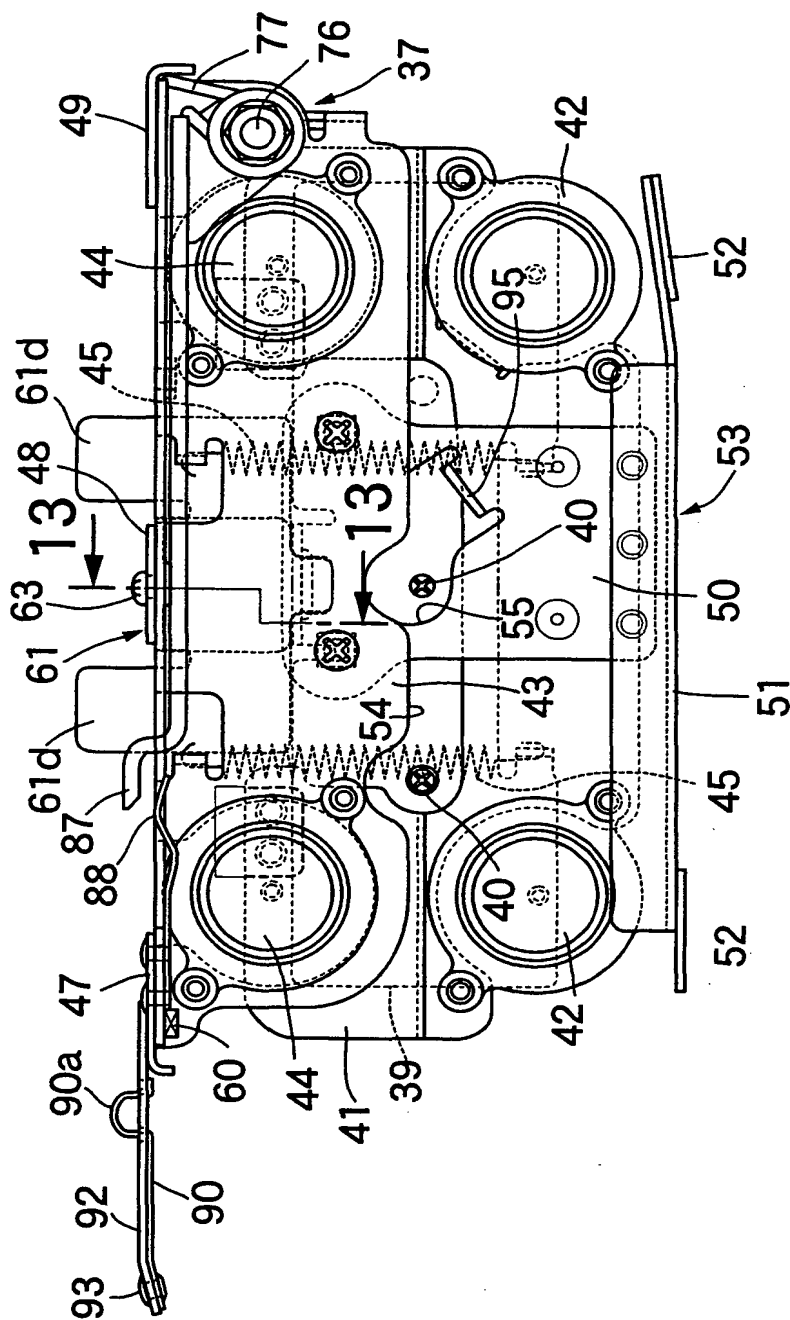
【図10】



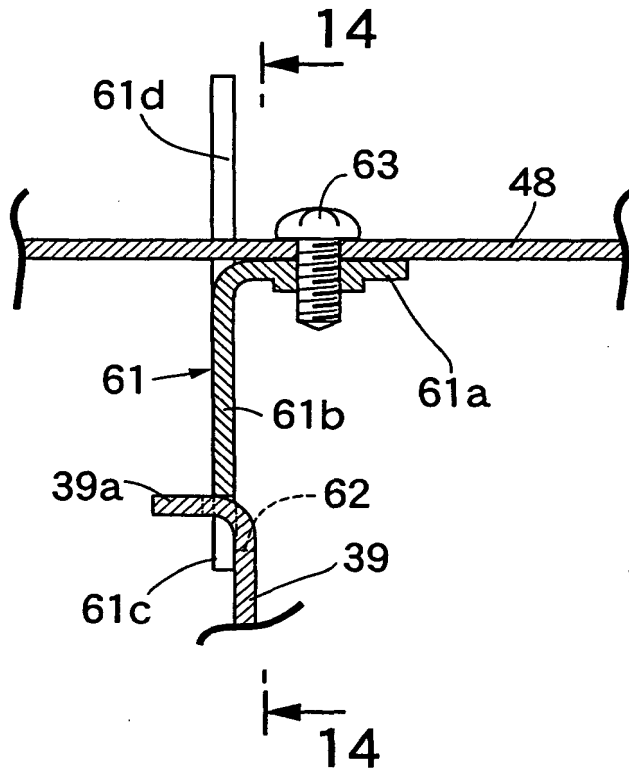
【図11】



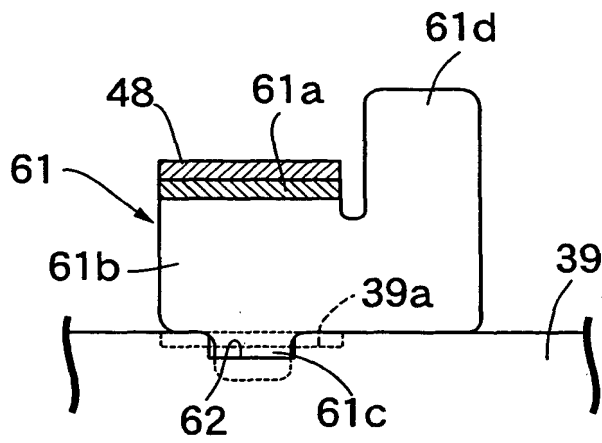
【图 12】



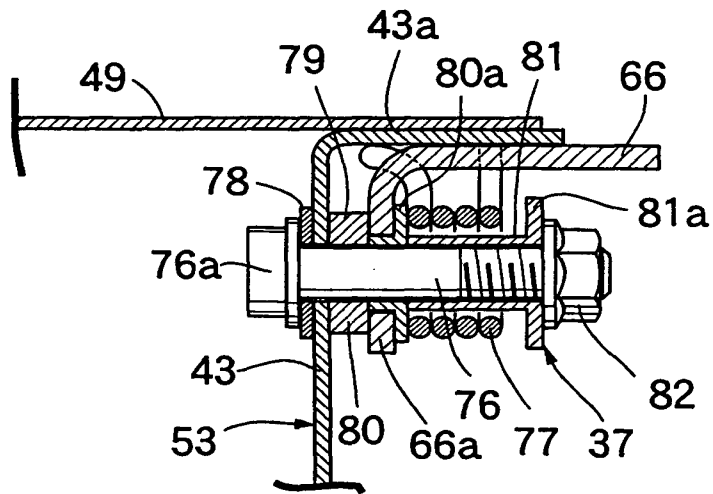
【図 1 3】



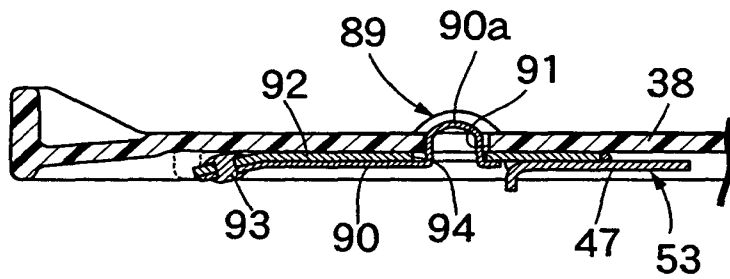
【図 1 4】



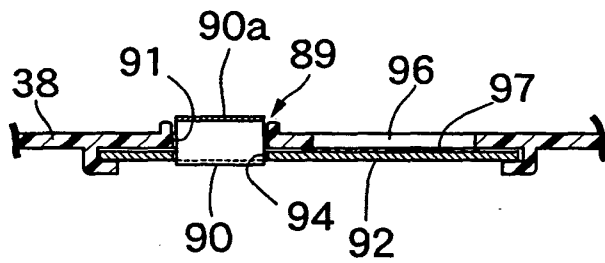
【図15】



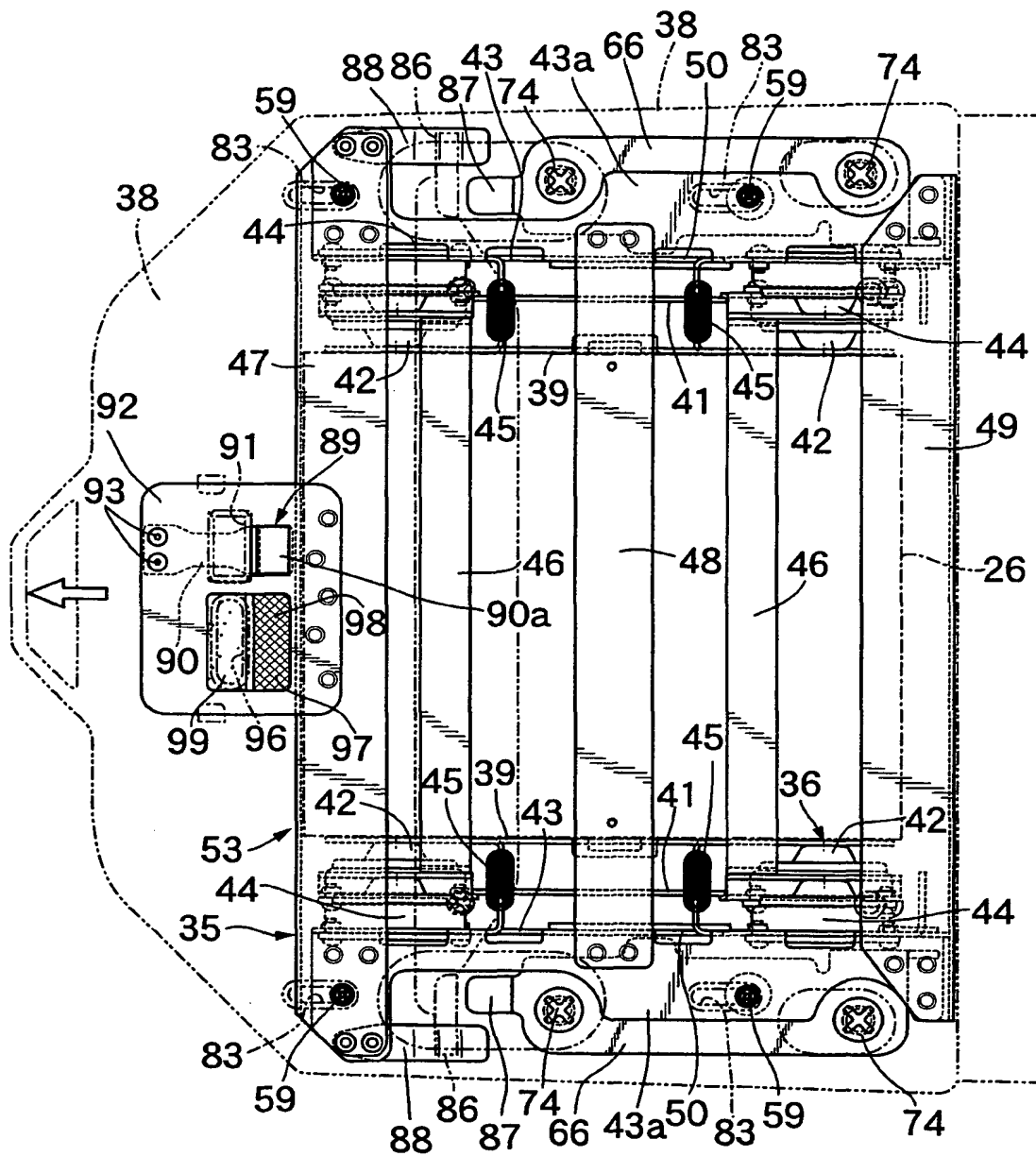
【図16】



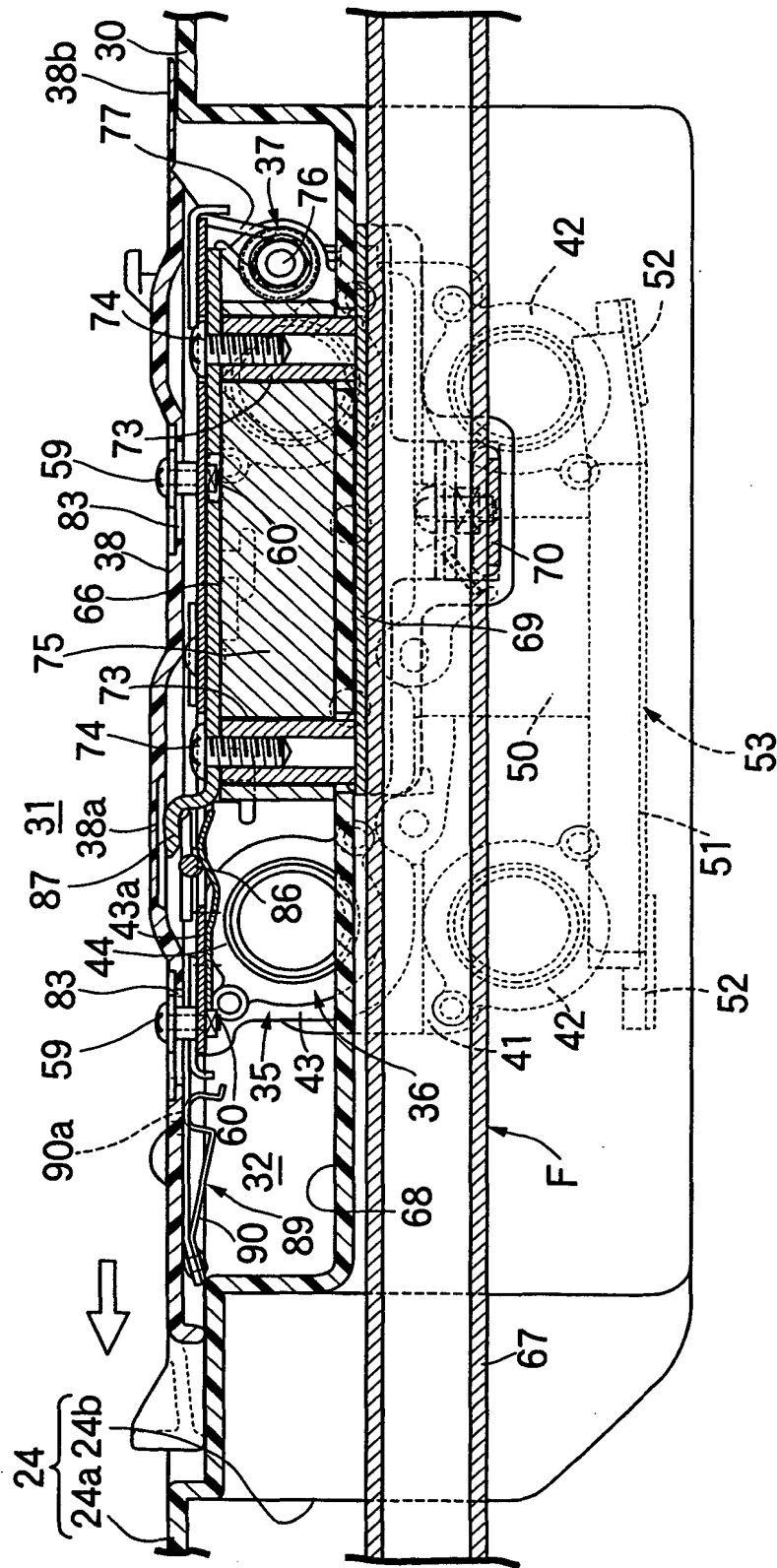
【図17】



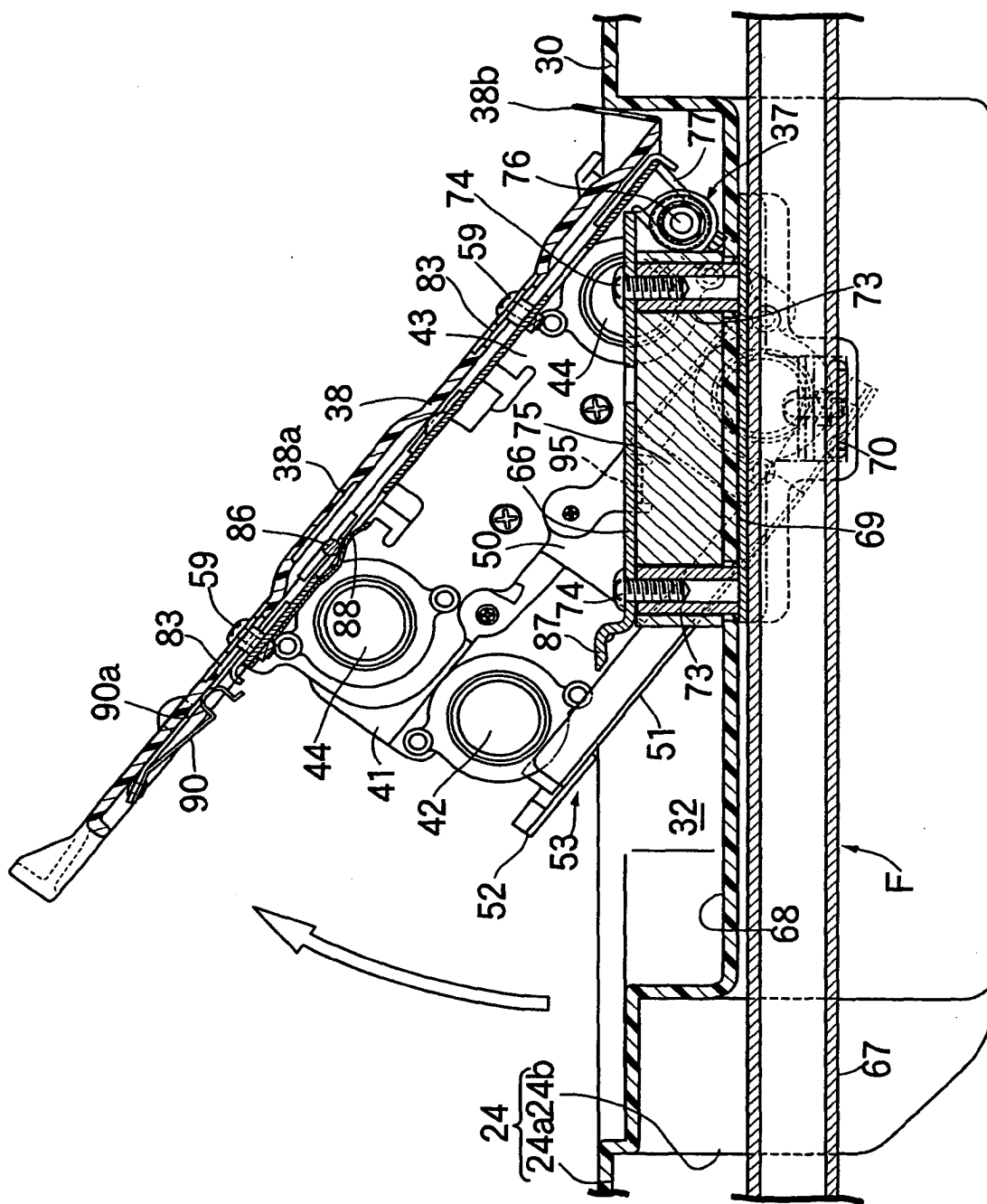
【図18】



【図 19】



【図 20】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 突出位置側に回動付勢されるＣＤチェンジャーをが収納位置にある状態では収納凹部の開口端を塞ぐ蓋板でＣＤチェンジャーが覆われるＣＤチェンジャーの収納構造において、ＣＤチェンジャーが不所望に突出位置に回動してしまうことがないようにする。

【解決手段】 係合解除位置および後方側の係合位置間でのスライドを可能として支持枠 5 3 に取付けられる蓋板 3 8 に係合部 8 6 が設けられ、両ベース板 6 6 には、蓋板 3 8 が係合位置にある状態では前記係合部 8 6 を係合せしめる係止部 8 7 が、蓋板 3 8 の係合解除位置へのスライドに応じて係合部 8 6 との係合を解除するようにして設けられ、蓋板 3 8 および支持枠 5 3 間には、蓋板 3 8 を係合位置でロックするとともにそのロック状態を手動操作に応じて解除し得るロック機構 8 9 が設けられる。

【選択図】 図 5

【書類名】 手続補正書

【整理番号】 YA102-35

【提出日】 平成14年12月26日

【あて先】 特許庁長官殿

【事件の表示】

【出願番号】 特願2002-229979

【補正をする者】

【識別番号】 390005430

【氏名又は名称】 株式会社ホンダアクセス

【代理人】

【識別番号】 100071870

【弁理士】

【氏名又は名称】 落合 健

【手続補正 1】

【補正対象書類名】 特許願

【補正対象項目名】 発明者

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県新座市野火止 8 丁目 1 8 番 4 号 株式会社ホンダ
アクセス内

【氏名】 榎本 賢一郎

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県新座市野火止 8 丁目 1 8 番 4 号 株式会社ホンダ
アクセス内

【氏名】 島崎 隆行

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県新座市野火止 8 丁目 1 8 番 4 号 株式会社ホンダ
アクセス内

【氏名】 落合 英雄

【その他】 〔発明者表示の誤記の理由書〕 出願人の代理人事務
所において本願の願書を作成する際に、発明者の住所又
は居所の欄の記載を正しくは 〔住所又は居所〕 埼
玉県新座市野火止 8 丁目 1 8 番 4 号 株式会社ホンダア
クセス内とすべきところを、誤って 〔住所又は居所〕
埼玉県新座市野火止 8 目 1 8 番 4 号 株式会社ホン
ダアクセス内と記載してしまいましたので、本日の提出
の手續補正書により願書の発明者の欄を訂正致します。

【プルーフの要否】 要

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [3 9 0 0 0 5 4 3 0]

1. 変更年月日	1 9 9 5 年 1 2 月 4 日
[変更理由]	住所変更
住 所	埼玉県新座市野火止 8 丁目 1 8 番 4 号
氏 名	株式会社ホンダアクセス